平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号)	提案機関名	神奈川県養鶏協会
２１９ ※記入不要		

要望問題　高付加価値卵の開発

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）　】

鳥インフルエンザ、Ｑ熱、表示問題等種々の要因から最近の鶏卵の消費は減退気味で、直販農家に於いてもこの傾向は見られています。一方、消費者の多様性は進んでおり、直販農家もこれに対応すべく品揃えを考えていますが、新しいアイテムは簡単には無いようです。

一方、食品の三次機能である生理活性物質の研究は年々進歩しており、新しい機能の知見が得られています。

そこで、これらの知見を基に高付加価値卵の開発を検討してください。

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③4～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	①研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産研究所

部　　署：畜産工学部

対応区分	①実施　②実施中　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可

試験研究課題名　(①、②、④の場合)

・機能性食品に関する研究（平成３～６年度)、

・消費者ニーズに対応した高付加価値鶏卵生産技術の確立

(2)飼料添加剤による鶏卵品質の向上に関する試験（平成７年度）

対応の内容等

高付加価値卵の開発については、平成３～６年度に機能性食品に関する研究を当所で実施しており、飼料から卵中への移行が比較的容易であると確認された生理活性物質（ビタミンA、D、E、β-カロチン、ビタミンB群、EPA・DHA等の不飽和脂肪酸）について、それぞれの効果的な添加量等を示しております。また、平成７年度には、未利用資源の有効利用の一つとして、海草のアオサを飼料に添加して高付加価値化を検討し、卵中のヨウ素含量が増加することを確認しております。

かつては飼料メーカー等が主体となって手がけていた高付加価値卵の生産も、今では多くの生産農家でそれぞれが創意工夫した生産が行われています。一方、高付加価値卵の開発については年々進歩しており、当所としても今後も情報の収集に努めて継続検討いたします。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③4～５年以内　④５～１０年以内

備　考